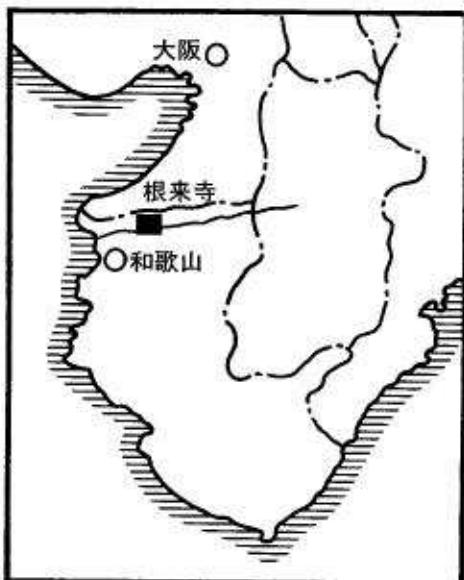


# 根来寺坊院跡

—町道根来・北大池線改良舗装工事に伴う事前発掘調査概報—



1988. 10

(財) 和歌山県文化財センター

## 序 文

新義真言宗總本山根来寺は、その最盛期には二千とも三千ともいわれる子院が山内に存在したといわれています。しかし、天正13年（1585）豊臣秀吉の根来攻めにより、大塔・大師堂などごく一部を除き、一山が灰燼に帰した史実は広く知られているところであります。

このたび、岩出町が山内の町道根来北大池線改良舗装工事を実施することになり、当センターが事前発堀調査を行い、県下では類例をみない地鎮遺構や半地下式倉庫跡などの遺構、中世から近世にわたる多数の遺物など貴重な資料を得ることができました。

ここに、その成果の一部を概要報告書として刊行することになりましたが、本書が中世史研究の一助となれば幸いと存じます。

最後に、この調査を実施するにあたり、ご協力いただいた関係者の皆様に厚くお礼申し上げます。

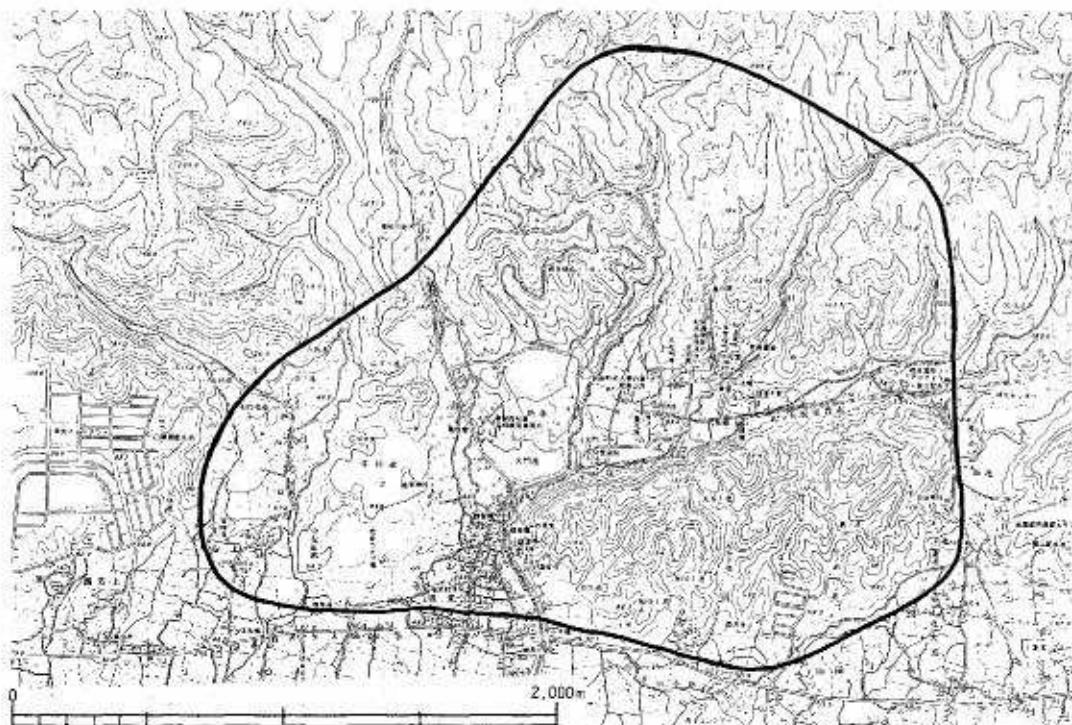
昭和63年10月

財団法人和歌山県文化財センター

理事長 仮 谷 志 良

## 例　　言

- 1 本書は町道根来・北大池線改良舗装工事に伴う根来寺坊院跡の発掘調査概報である。
- 2 調査は岩出町から委託を受け、財団法人和歌山県文化財センターが実施した。
- 3 本調査は財団法人和歌山県文化財センター技師佐伯和也が担当し、調査並びに、本書の作成にあたっては調査補助員窪田雅秀の助力を得た。
- 4 本書の調査・位置と歴史的環境及び遺構の項は佐伯が、遺物の項は窪田が執筆にあたった。
- 5 本書の遺構写真は佐伯が、遺物写真は窪田が撮影した。また遺物の実測は中井戸智子があり、遺構、遺物のトレースは佐伯、窪田、中井戸がそれぞれ分担した。
- 6 本書で使用した遺構の記号は、土坑—SK、溝状遺構—SD、石列—SV、溜枡—SF、その他—SXである。
- 7 本文・実測図・写真図版の遺物番号はすべて共通する。
- 8 遺物実測図は全て1/3で、遺物写真図版は任意の大きさで収録した。
- 9 本書の編集については、佐伯、窪田がこれにあたった。



第1図　遺跡の範囲

## I 調査

調査区（第2図）は西からA～Eと称した。

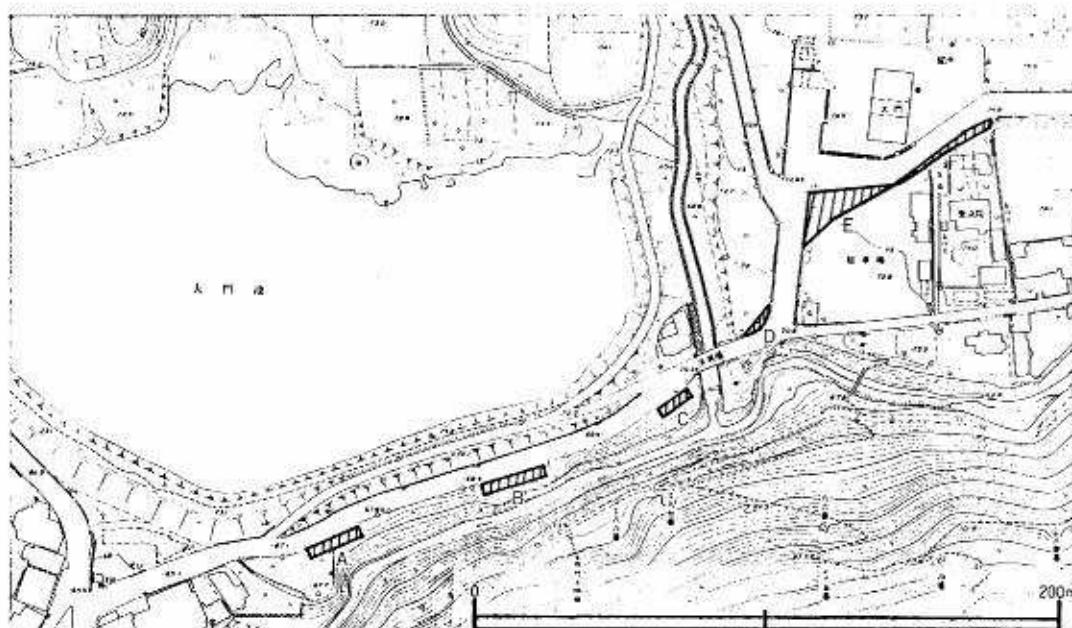
A～C区は菩提川右岸の道路拡幅部分にあたり、遺構の有無を確認するため設定したトレンチである。しかし、遺構は確認できなかった。D区については天正の兵火後の整地層は認められたが、遺構については検出できなかった。

E区については、現有道路のコーナー部分を直線化するため、最も広い面積を有する調査区であり、過去遺構が検出された隣接地にあたるため全面発掘を実施した。F区についても道路側溝工事の際遺構を確認しているため全面調査を実施した。

## II 位置と歴史的環境

根来寺は北は和泉山脈から派生した尾根と、南は通称前山と呼ばれる独立山塊とに挟まれた山間に位置し、その遺跡の範囲は町屋部分とその周辺を含めて、東西3.5km、南北2.0kmと考えられている。

前山には櫓と考えられる掘立柱建物跡・土壘・堅掘などの遺構が確認されており、城砦的性格も窺うことができる。また隆盛期には、ポルトガル人宣教師ルイス・フロイスの書簡である『日本史』に記されているように、「彼らは軍事にはきわめて熟達しており、とりわけ鉄砲と弓矢にかけては、日頃不斷の訓練を重ねていた。」とある。このことは戦国期における根来寺の性格を知る上でも興味深い。



第2図 調査区位置図

### III 遺構

A・B・C区のトレンチ調査では、南への地山の落ちを確認したにとどまる。

D区は表土の直下が山土の整地層であり、その下に天正の焼土が混る整地土がある。この区もまた、A・B・C区と同様地山を確認したにとどまる。

E区は現大門の南20mに位置し、遺構面二面を確認した。

F区は愛染院の門前を中心に東西に延びる幅2mの狭小な調査区である。検出遺構は中世に限られる。以下遺構を検出したE・F区の主要な遺構について記述する。

#### E区上面の遺構（天正の兵火に係る時期～近世）

上面遺構は第一層（現代の整地土）、第二層（焼土混りの淡灰黄色土）、第三層（焼土層）を除去後に検出した。主な遺構には、溝、池状遺構、上坑、埋桶、溜糞、半地下式倉庫などがある。

S D-02 幅約50cmの南北に走る溝で、20～30cm大の砂岩を積み側石とし、扁平な砂岩で蓋をした暗渠排水溝である。底面のレベルから判断しておそらく北から南へ流れていったものと思われる。

S D-03 幅約30cmの掘形に径5～10cm大の玉石を詰め込んだ暗渠排水溝である。

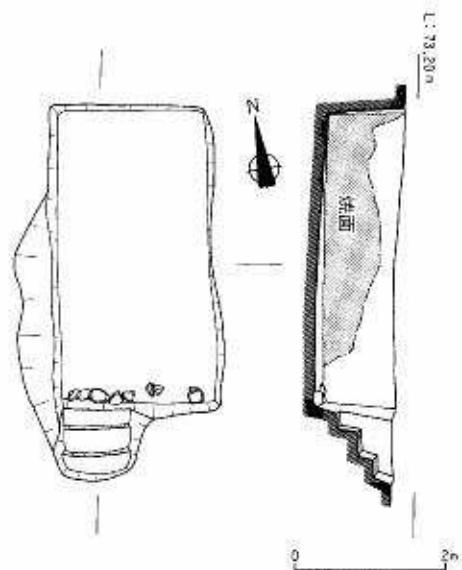
S X-01 東西4m、南北7mの池状遺構であり、北辺では内側に面を持つ石積みが施こされている。使用石材は殆んどが砂岩であるが、一部に片岩も使用されている。底面の一部には、植物性の繊維が敷き並べられ炭化した状態で認められた。しかし、その性格は不明である。

S B-01(第3図) 調査区のはば中央で検出した。規模は東西2.2m、南北4.0m、深さ約1.0mである。平面形は長方形を呈し、南辺西側に三段の階段が削り出されている。床には厚さ約10cm

の張り床が全面に施されている。周囲の壁は焼けしており、壁から床にかけて一部分ではあるが茹状の炭化物が貼りついた状態で認められた。覆土は基本的に上層（炭混入焼土）、中層（淡黄灰色弱砂質土）、下層（焼土）と三層に分層できたが、出土遺物には時期差が認められなかった。なおこのような遺構は61年度・62年度の調査でも検出されている。<sup>註1</sup>

#### E区下層の遺構

天正の兵火時の遺構面である整地層（淡灰黄褐色上）を除去した後に検出した遺構であり、地鎮遺構、土坑、溝、井戸、ピットなどがある。これらは15世紀前半から16世紀前半にかけての遺構であるが、同



第3図 SB-01実測図

一面で検出した。

地鎮遺構（第4図） 調査区中央で検出した。土師質中皿20枚を井桁状にならべ、その中にさらに4枚の土師質中皿をならべたものである。なお、それぞれの皿には、唐銭である開元通宝や天聖元宝をはじめとする7種の北宋銭が各1枚納置されていたものと考えられるが、検出したのは21枚だけである。これまで、根来山内での調査において何例かの地鎮遺構<sup>註2</sup>を検出しているが、本例にみられるような形態は県下でも初例であるとともに、土坑内に納置された例も山内では初例といってよい。土坑は長径約1m、短径約0.8mの橢円形を呈し、深さ約6cmを測るが、本来の掘込み面はもう少し上方であると思われる。なお、調査区が道路敷幅に限られているため、本遺構が単独で存在するものなのか、あるいは複数でセットになるものなのかについては不明である。しかし、本遺構に伴うとみられる建物跡が検出できなかったことから、敷地内において複数でセットとなるような地鎮遺構と考える方がより自然であろう。

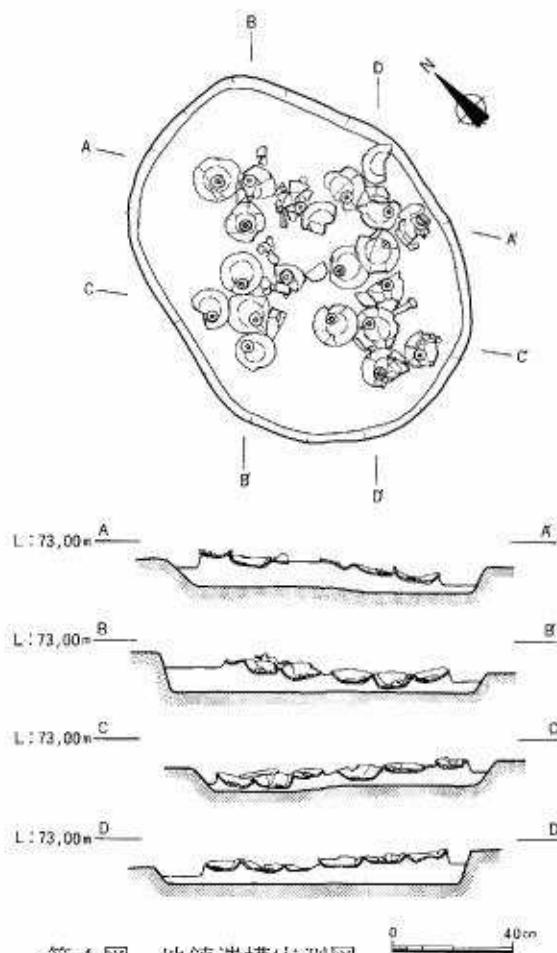
S E-01 調査区のほぼ中央、S B-01の張床をはずして検出した井戸である。底の掘形から木枠の井戸の可能性も考えられるが、その痕跡を確認するに至らなかった。上部東半部はS B-01に切られているが、その規模を復元すると、径は3m弱の掘形である。深さは2.8mを測る。

この井戸からは土師質皿や木製品が多量に出土した。木製品の中では箸の出土量が圧倒的に多い。覆土は基本的に上層（暗青灰色粘泥土）、中層（青灰色木端層）、下層（青灰色粘泥土）と三層に分層できるが、遺物の出土は主に中層からである。

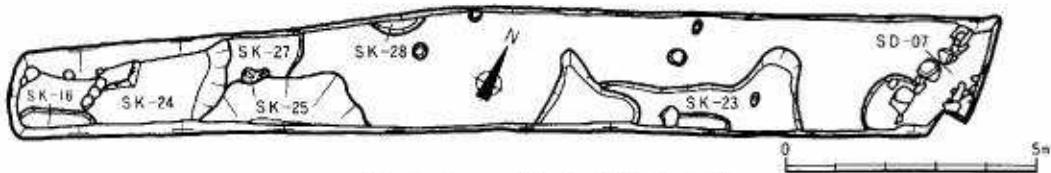
#### F区の遺構

検出遺構は土坑、ピット、溝などである。トレンチ状の調査区であるため遺構の規模及び、その性格については明らかにすることはできなかった。

S K-24 調査区の南西隅に落ち込む。井戸とも思われる遺構である。覆土は青灰色弱粘質土



第4図 地鎮遺構実測図



第5図 F区東端遺構平面図

である。

SK-25 南へすり鉢状に落ち込む土坑と思われ、覆土はSK-24と類似する。

SK-24・25からは白色を呈する土師質皿が出土していることから15世紀代と考えられる。

#### IV 遺物（図1～6、図版4～7）

今回の調査区A～F区において、調査面積が広かったE、F区からは15～16世紀を中心とした多くの遺物が出土した。しかし、A～D区においては出土した遺物は少なく、C区から出土の瓦質土釜（1）を除いては、図化できるものはなかった。以下、主要な遺物を層、遺構ごとに説明を行うことにする。

##### a C区第1層出土の遺物（図1-1、図版4）

1は近世のものと思われる瓦質土釜である。よく発達した鋸をもち、鋸の上部には4本の沈線を施している。胎土は灰白色を呈し、口縁部内外面ともヨコナデを施している。

##### b E区第1層（図1-2～10、図版4）及びE区第2層出土の遺物（図1-11～14）

近世の整地層である第1層からは、白磁菊皿（4）、土師質熔炉（6）など近世の遺物の他、中国製青磁碗（2）・白磁皿（3）、瓦質こね鉢（5）、土師質皿（7～10）など中世の遺物が混入する。下層遺構上の整地層である第2層からは、備前焼甕（11、12）、土師質皿（13、14）など中世の遺物のみが出土する。

##### c 遺構出土の遺物

E区SK-04（図1-15～21、図版4）及びE区SK-05出土の遺物（図2-22～26、図版4）  
体部内面に丸ノミによる蓮弁文を施した中国製青磁盤（15）・端反り口縁の白磁皿（16）・染付皿（17）、土師質皿（18～21・22～25）、軒丸瓦（26）などが出土している。

##### E区SX-01（図2-27～35、図版5）及びE区SB-01出土の遺物（図2-36～42）

無文で口縁部の内側に内彎する中国製青磁碗（27）、端反り口縁の白磁皿（28）、内面見込に人物文を描く染付碗（29）、口縁部の内側に内彎する染付皿（30～32）などの他、美濃瀬戸系天目茶碗（37）、瓦質甕（33）、土師質皿（34、35、38～41）、東播系須恵質こね鉢（42）が出土する。

##### E区SK-15（図3-43～56、図版5）及びE区SK-16出土の遺物（図3-57～61、図版5）

型づくりによる中国製青磁人形（43）、滑石製鍋（57）などが出土するが、瓦質こね鉢（44、45、58）、土師質皿（46～56、59～61）などから15世紀後半と考えている。

#### E区地鎮造構の遺物（図4—62～85、図版6）

土師質皿（62～85）は山内において出土する白土器とはプロポーションは似るが、白土器とは異なり、砂粒を含み淡い黄白色を呈しやや軟質である。体部内外面をヨコナデで調整するもので、68、69には底部内面に不定方向に板状工具による刷毛のあとが見られる。開元通宝をはじめ天聖元宝などの銭計21枚（このうち6枚は判読不能）を伴って出土した。<sup>注3</sup>

#### E区S E—01上層（図4—86～98、図版6）、中層（図5—99～119、図版6）、下層出土の遺物（図5・6—120～148、図版6・7）

土師質皿（87～97、99～116、120～137）をはじめ、備前焼すり鉢（86）、東播系須恵質こね鉢（117、118、141）、瓦質火舎（119）・こね鉢（138、139、142）、土師質鉢（140）、軒平瓦（143）、瓦器椀（144、145）などが出土した。墨書名のある木札（98、148）のうち148には「三斗」の墨書が見られ荷札と思われる。また、刀子状木製品（146）や箸（147）も出土している。

87、88、120、121は口縁部が内彎気味に立ち上がる土師質皿で、口縁部内外面のみヨコナデを施し、底部内面を不定方向にナデ、体部外面に指頭圧痕を残すものである。92～94、96、102～107、126～128、133は白土器の皿で、根来寺においては15世紀中頃に盛行する遺物である。

144、145、の瓦器椀には高台がなく、終末期のものと思われる。

このように、白土器の占める割合が低く、瓦質製品や終末期の瓦器を含むことなどから、15世紀初頭から前半と考えている。

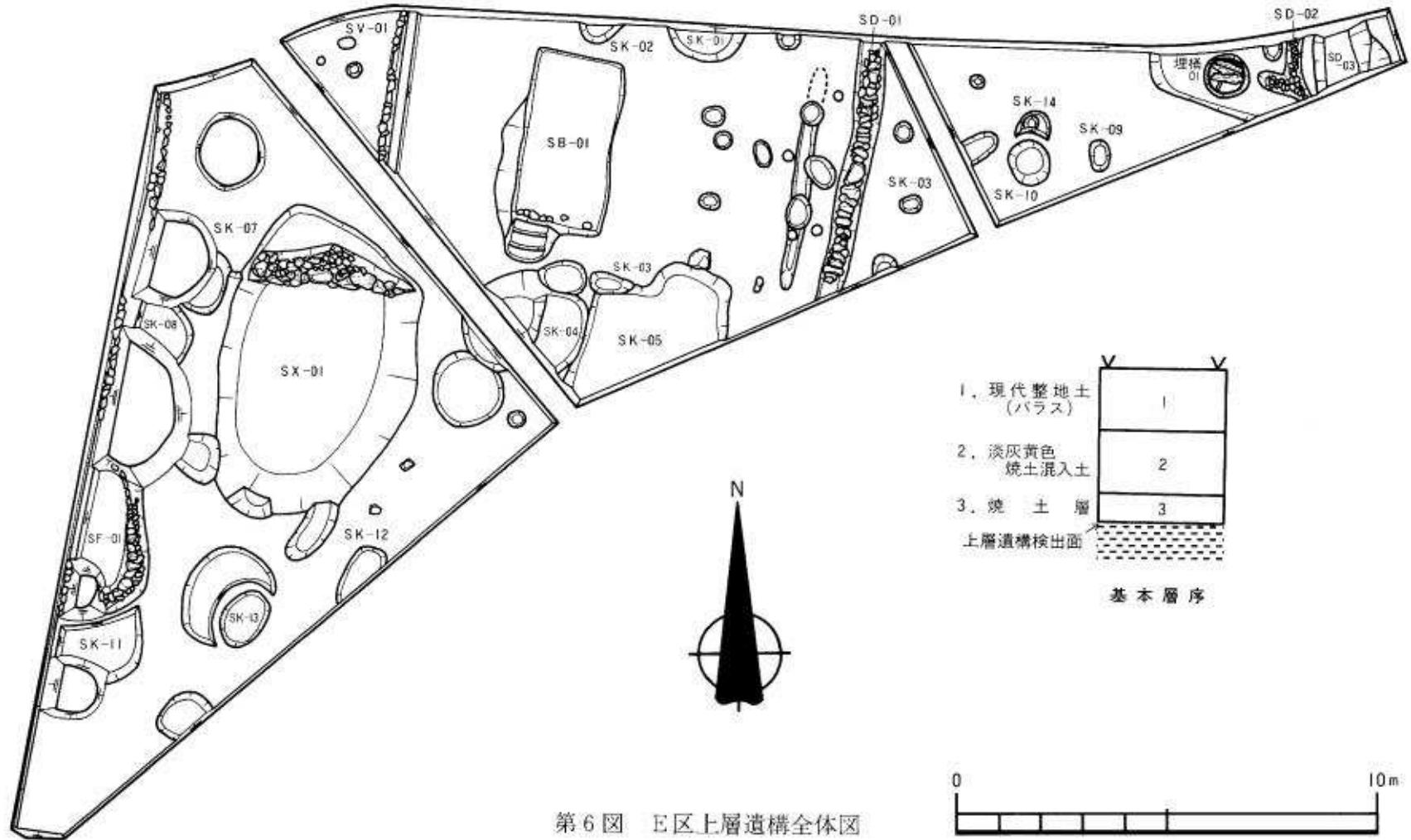
#### F区SK—24・25出土の遺物（図6—149～155、図版7、図6—156～173、図版7）

中国製青磁碗（156）、白磁四耳壺（157）を除いた遺物は一括資料と言え、E区S E—01と同時期のものと思われる。

156は端反り口縁の青磁碗で、釉調は草緑色を呈する。また、東播系須恵質こね鉢（158）、土師質土鍋（159）、土師質皿（160～173）も見られる。173は高台の付く土師質皿で、淡赤橙色を呈し、砂粒を多く含む。口縁部内外面にヨコナデを施し、体部外面には指頭痕を残している。

#### 註

- 1) 昭和61、62年度根来寺坊院跡 和歌山县教育委員会
- 2) 昭和56、58、61年度根来寺坊院跡 和歌山县教育委員会
- 3) 罫内にみられるものとは異なり、よく水窓した精良で緻密な胎土で砂粒を含まず、乳白色を呈する土師質皿である。



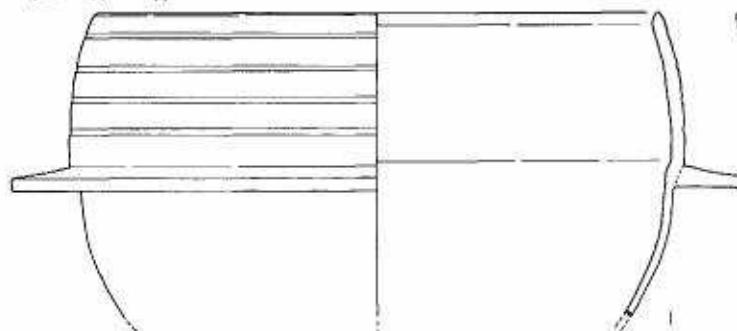
第6図 E区上層遺構全体図



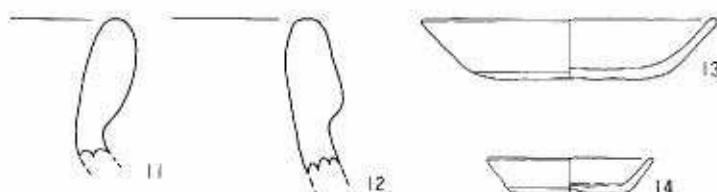
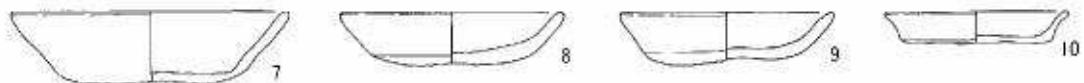
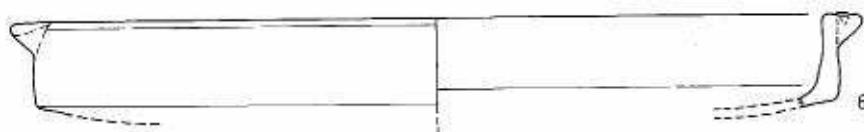
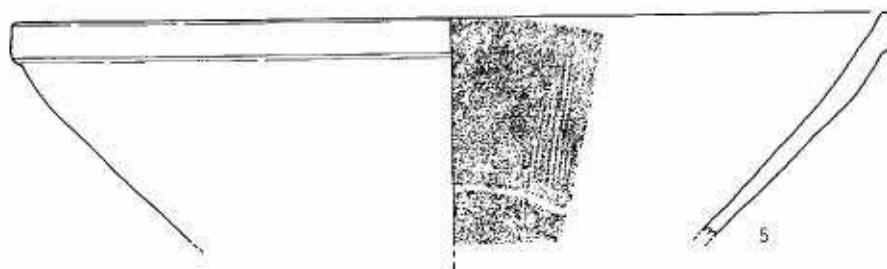
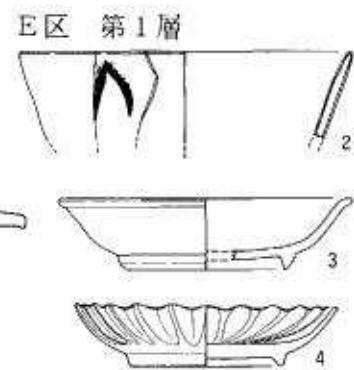
第7図 E区下層遺構全体図

図 C区 第1層

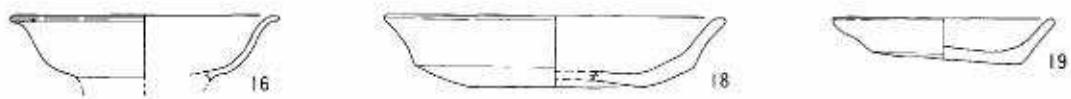
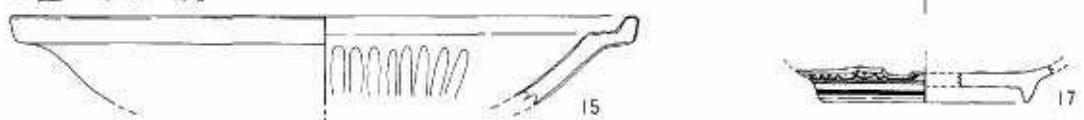
1



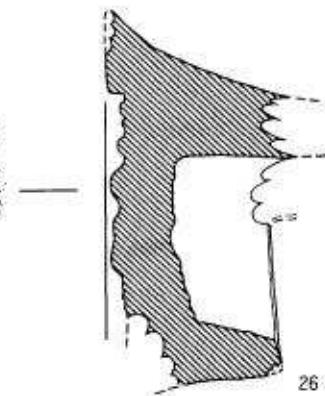
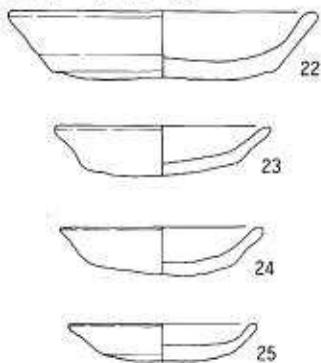
E区 第1層



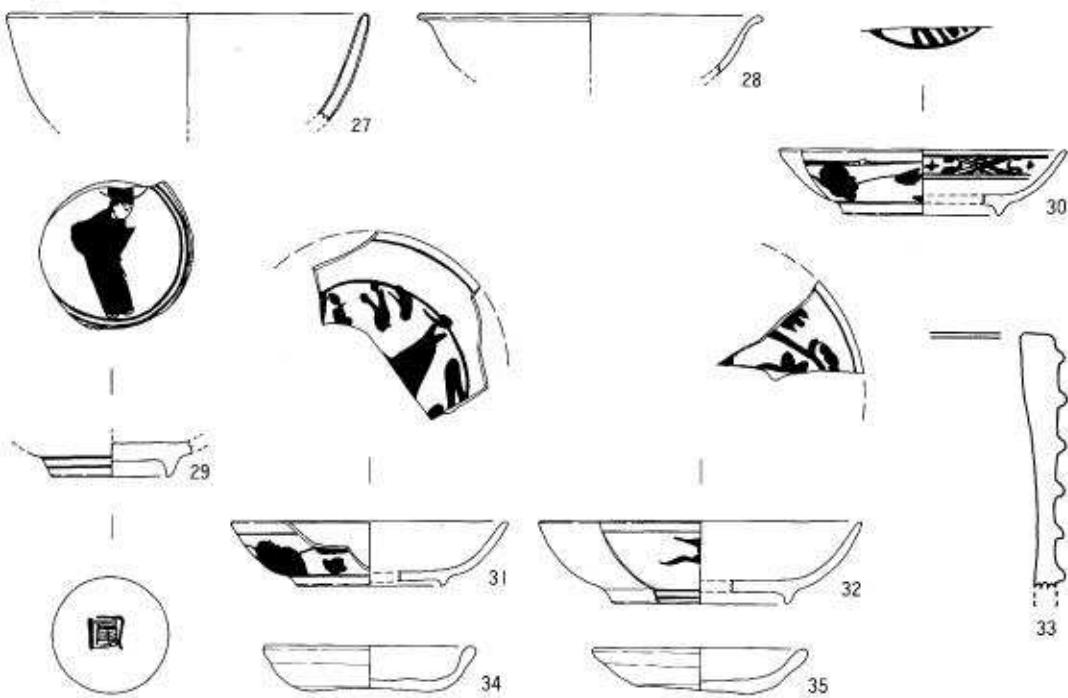
E区 SK-04



E区 SK-05



E区 SX-01



E区 SB-01

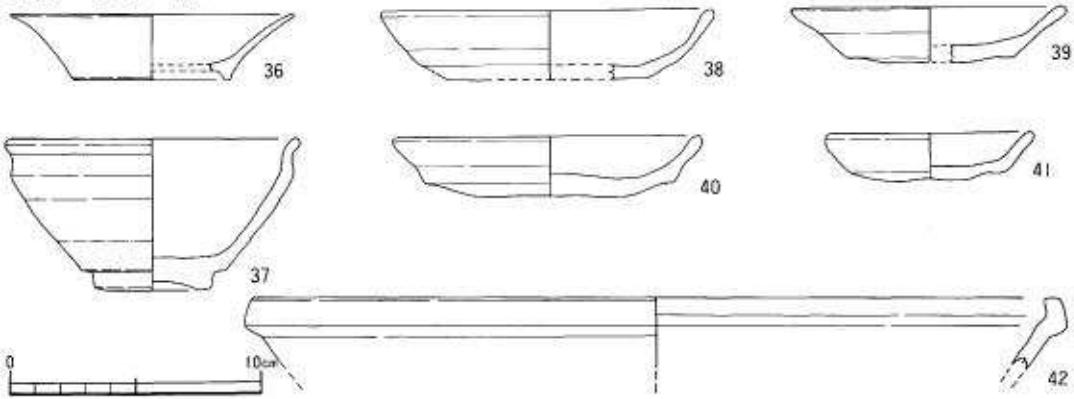
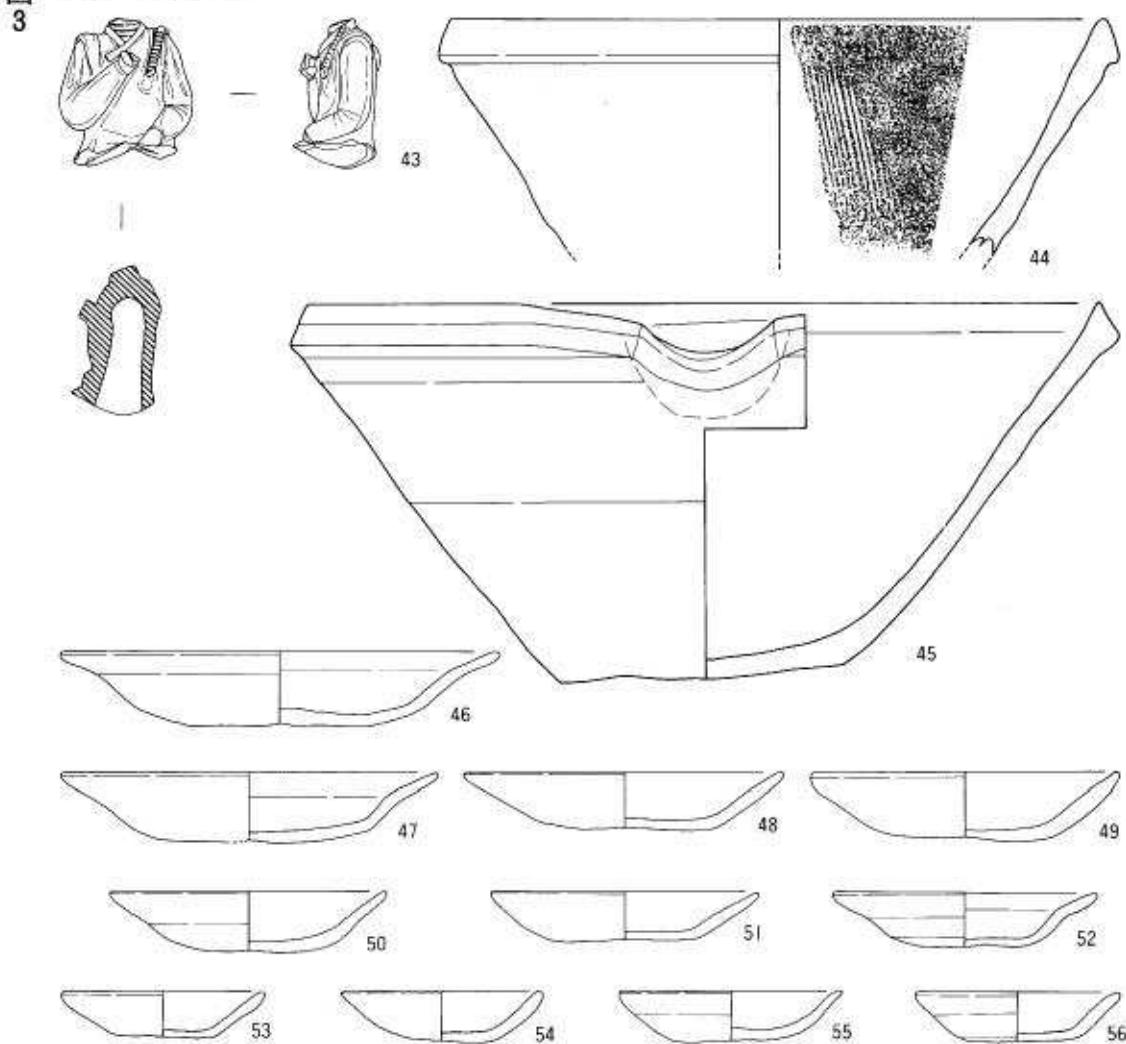
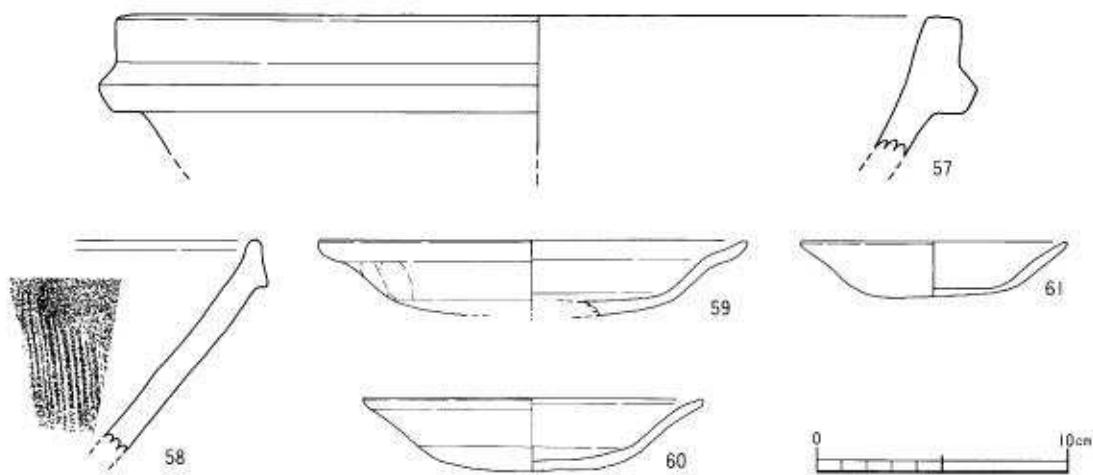


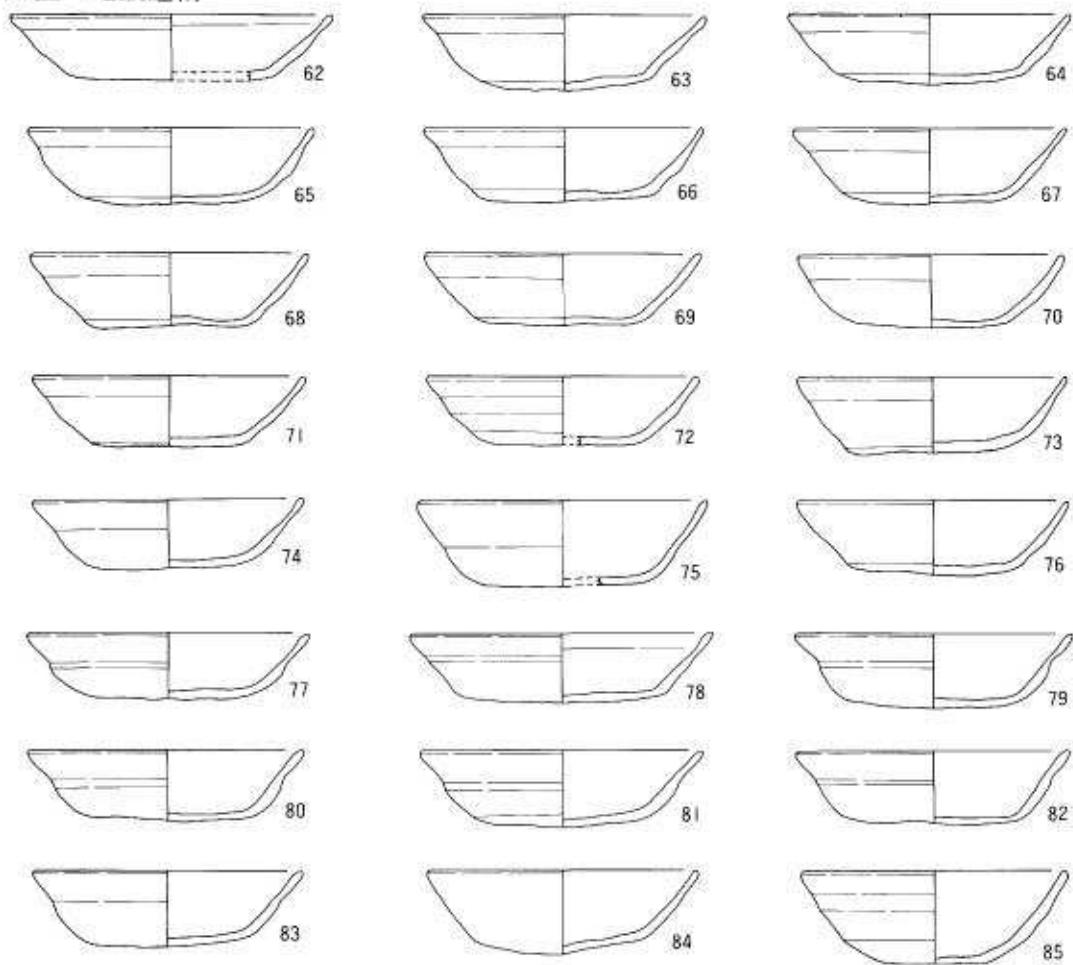
図 E区 SK-15



E区 SK-16



## E区 地鎮遺構



## E区 S E -01上層

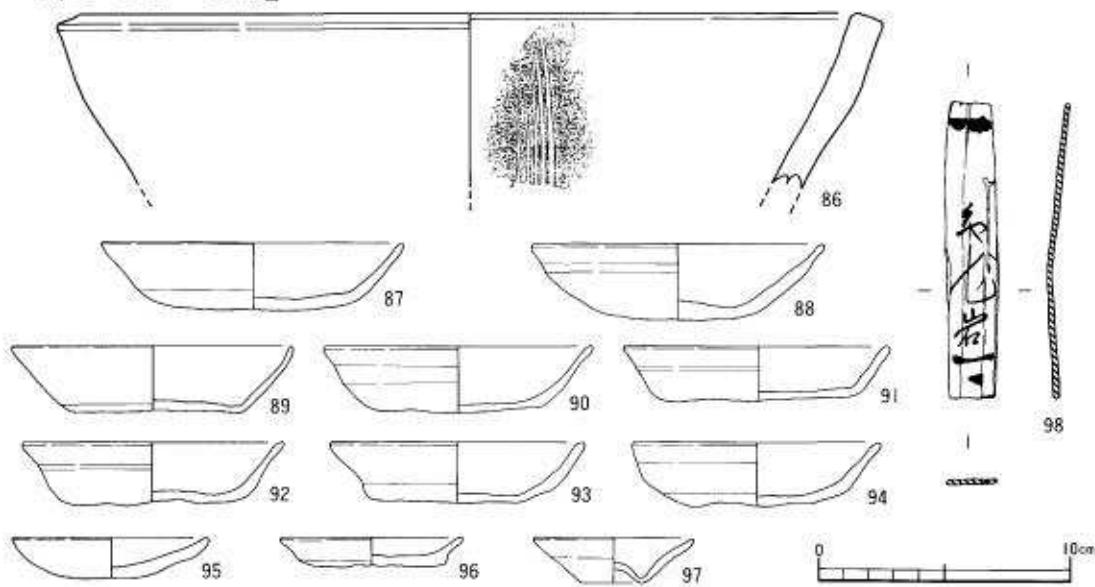
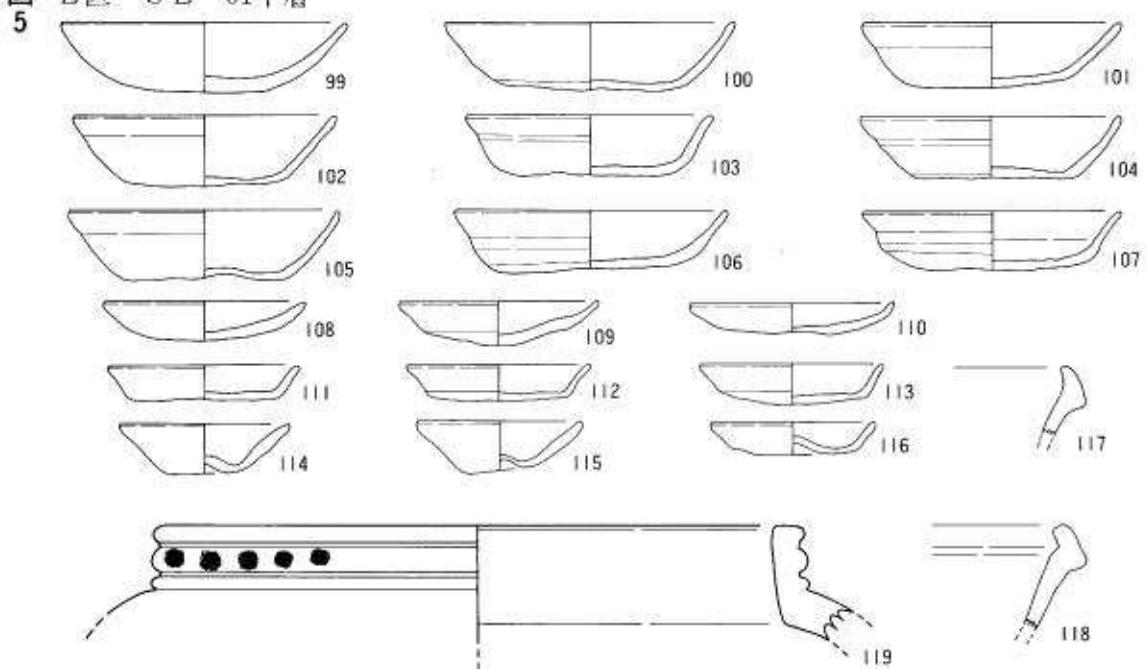
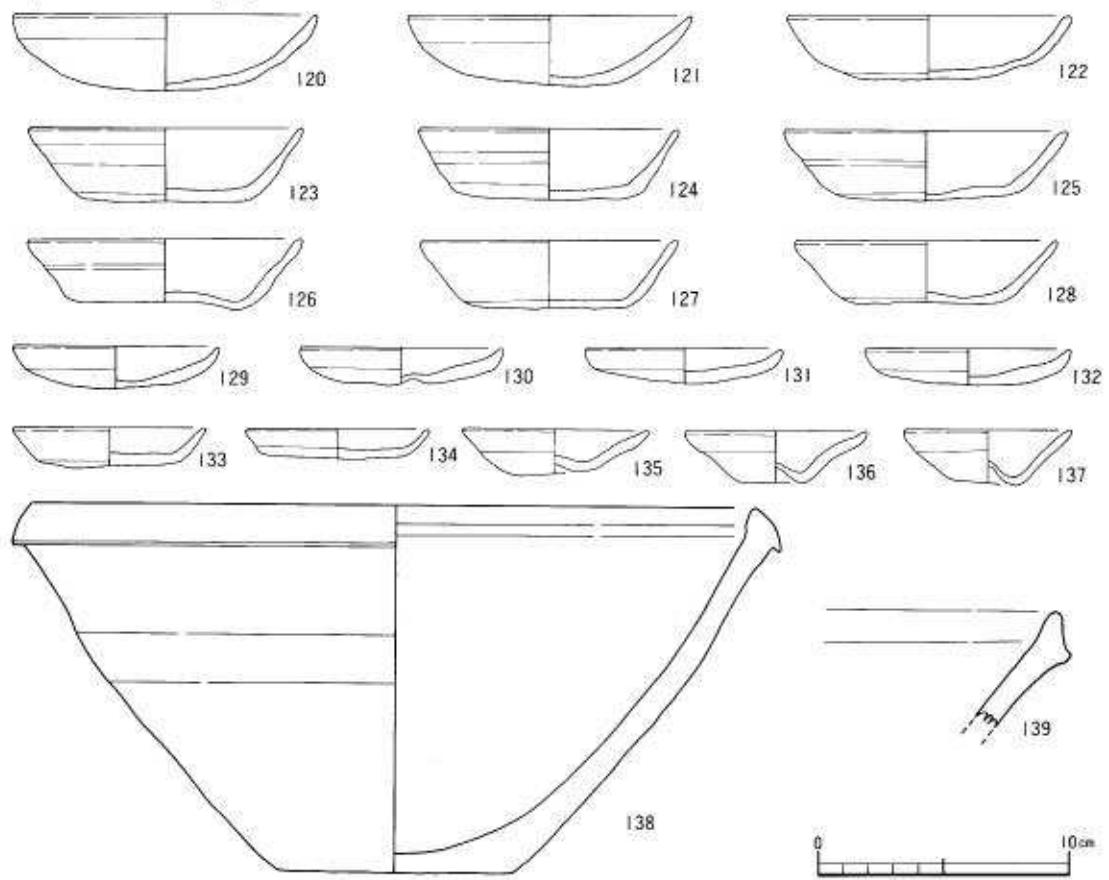


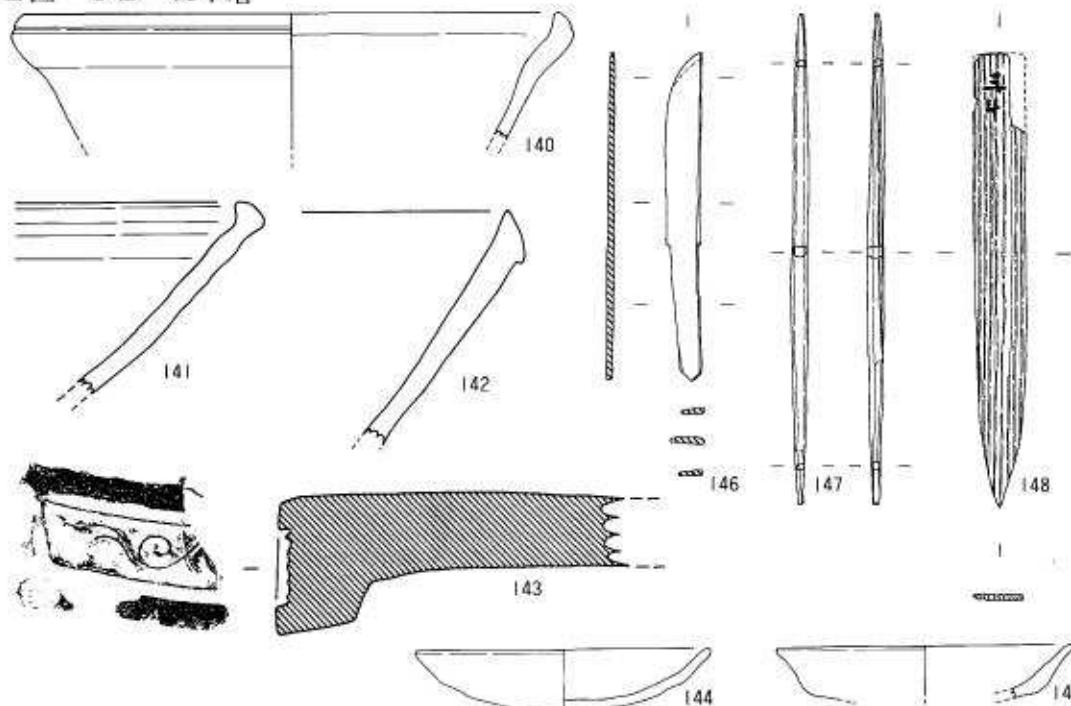
図 E区 SE-01中層



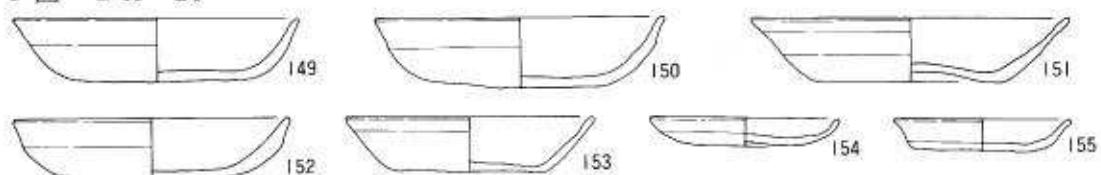
E区 SE-01下層



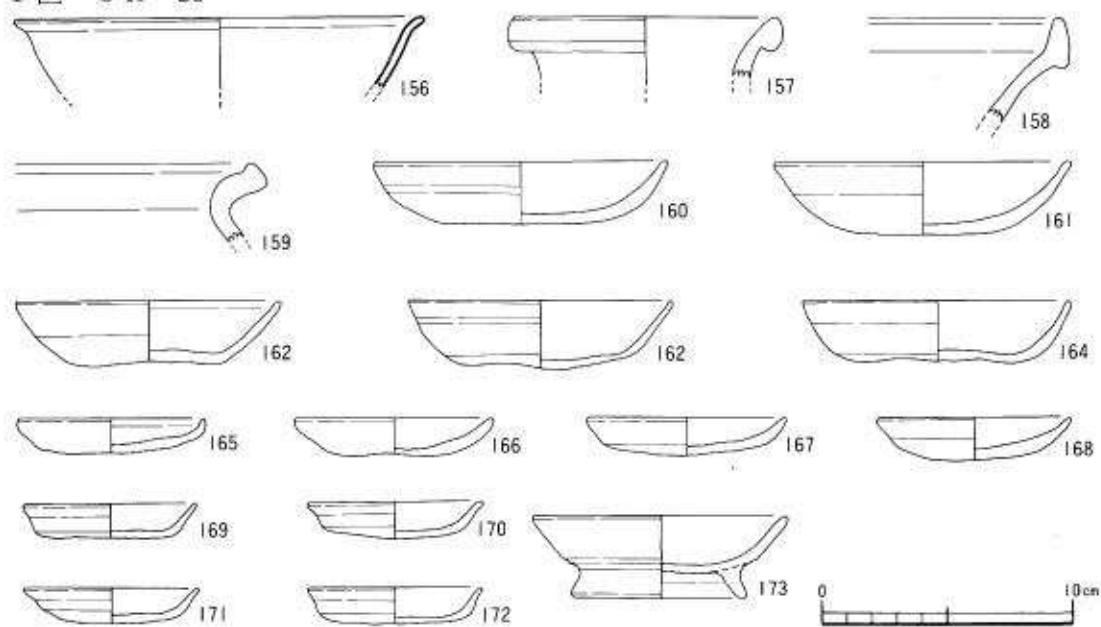
## E区 SE-01下層



## F区 SK-24



## F区 SK-25



図版 3



E区 上層全景（南から）



E区 下層全景（南から）



E区 SB-01 (北から)

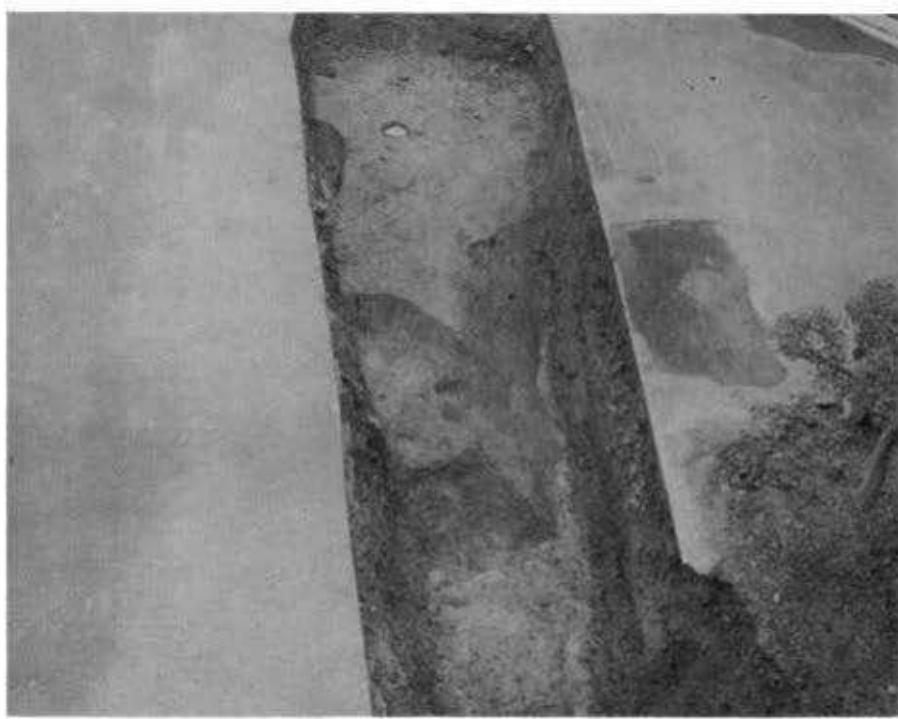


E区 地鎮坑遺構 (東から)

図版 1

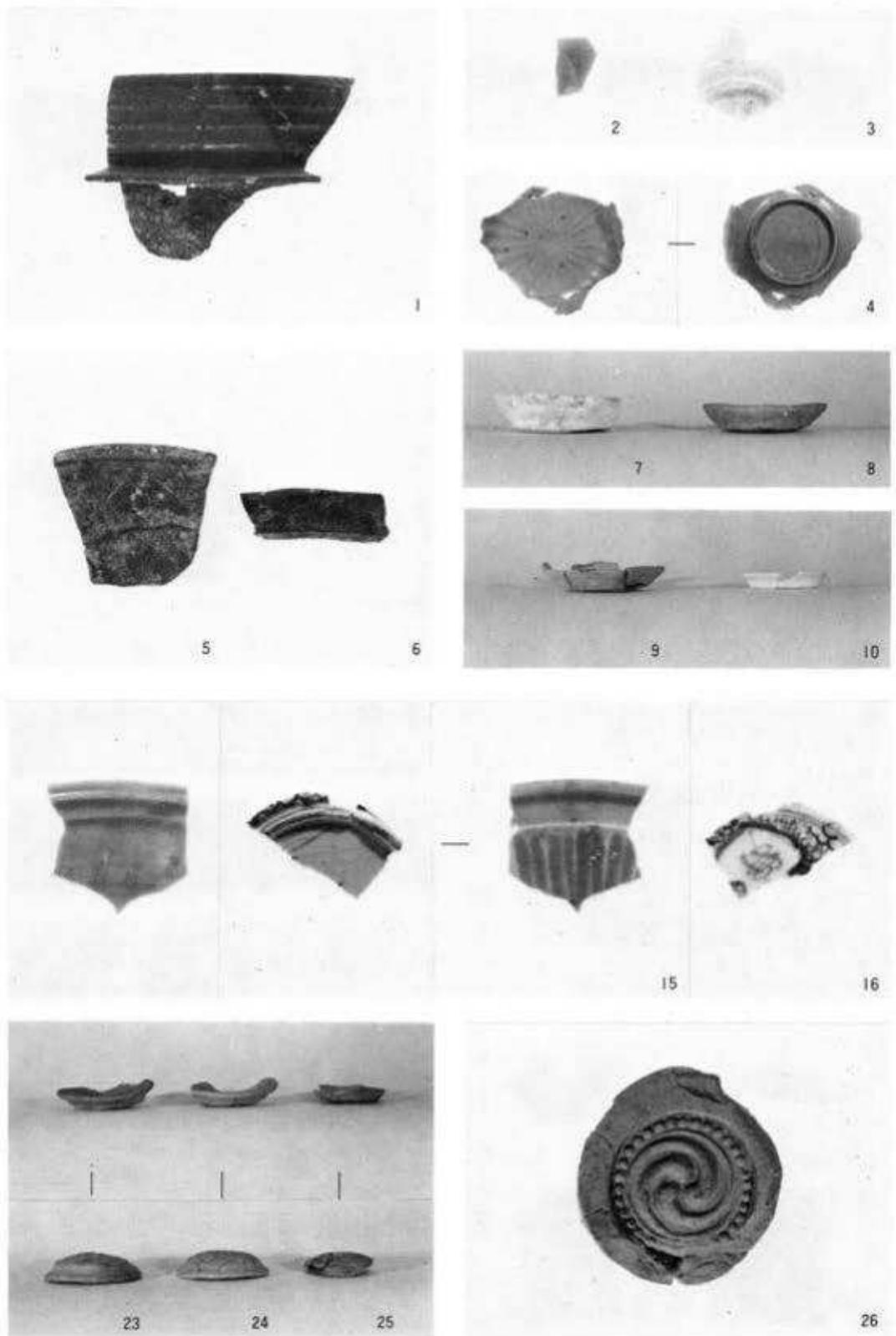


E区 SE-01 (東から)

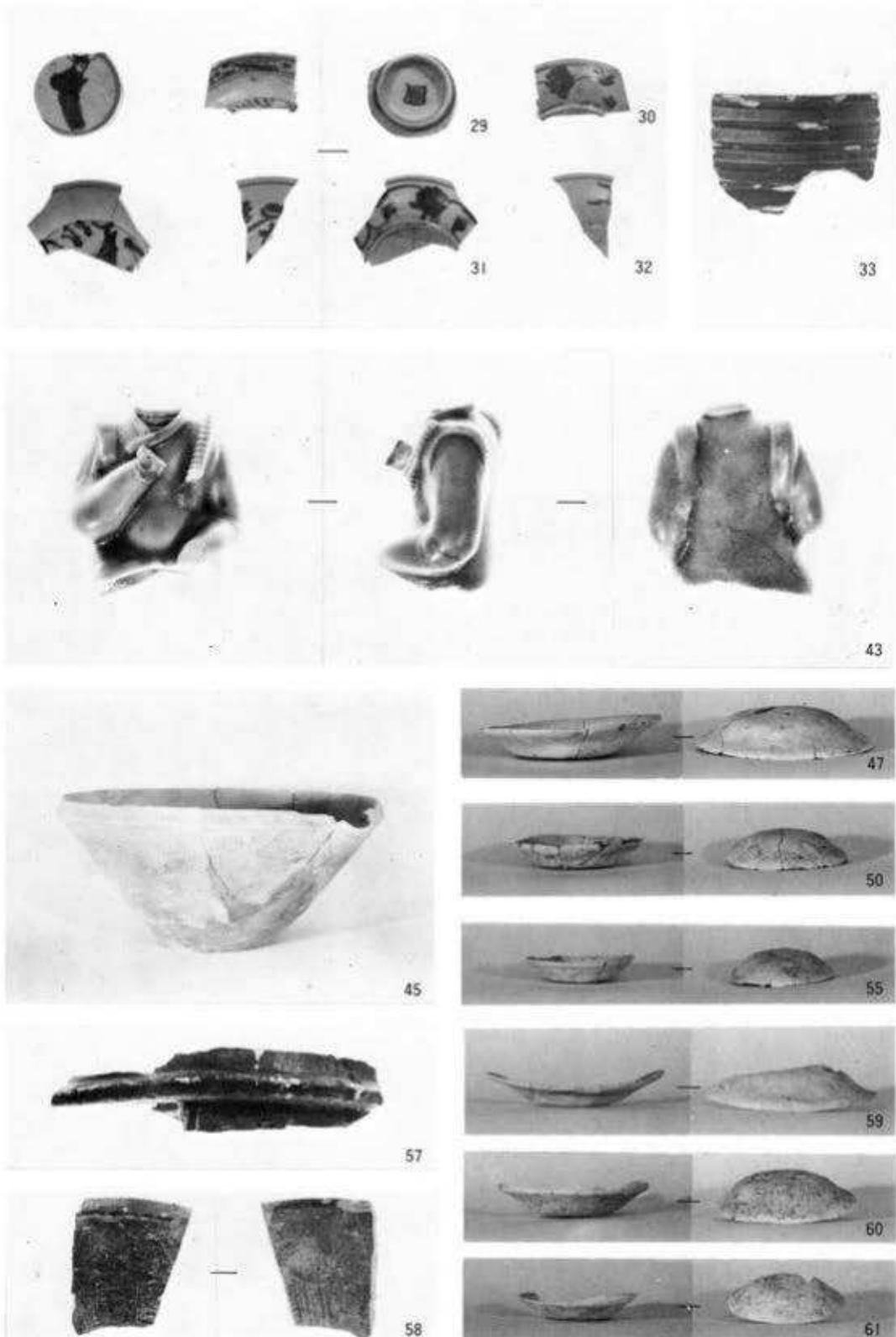


F区 全景 (西から)

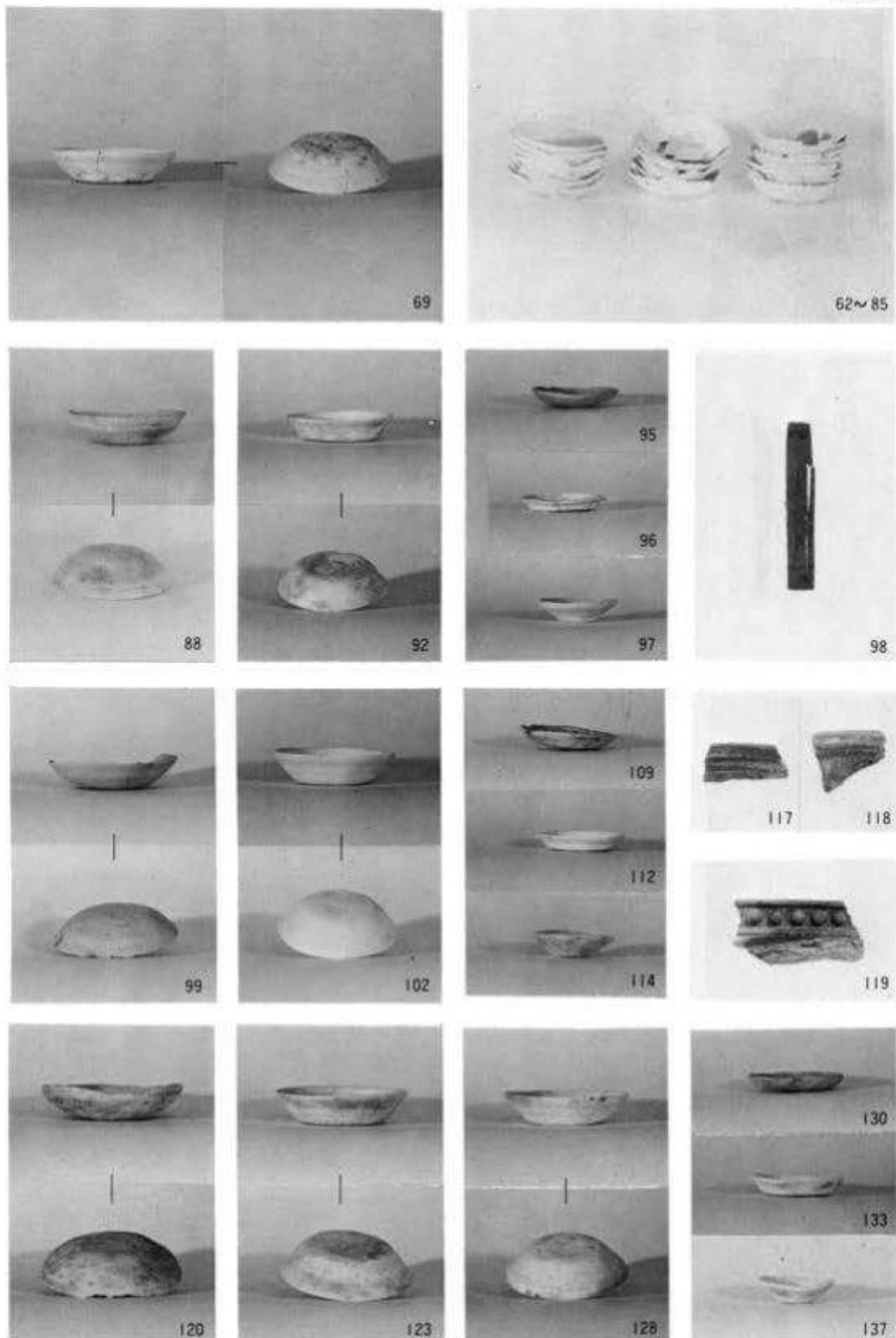
図版 4



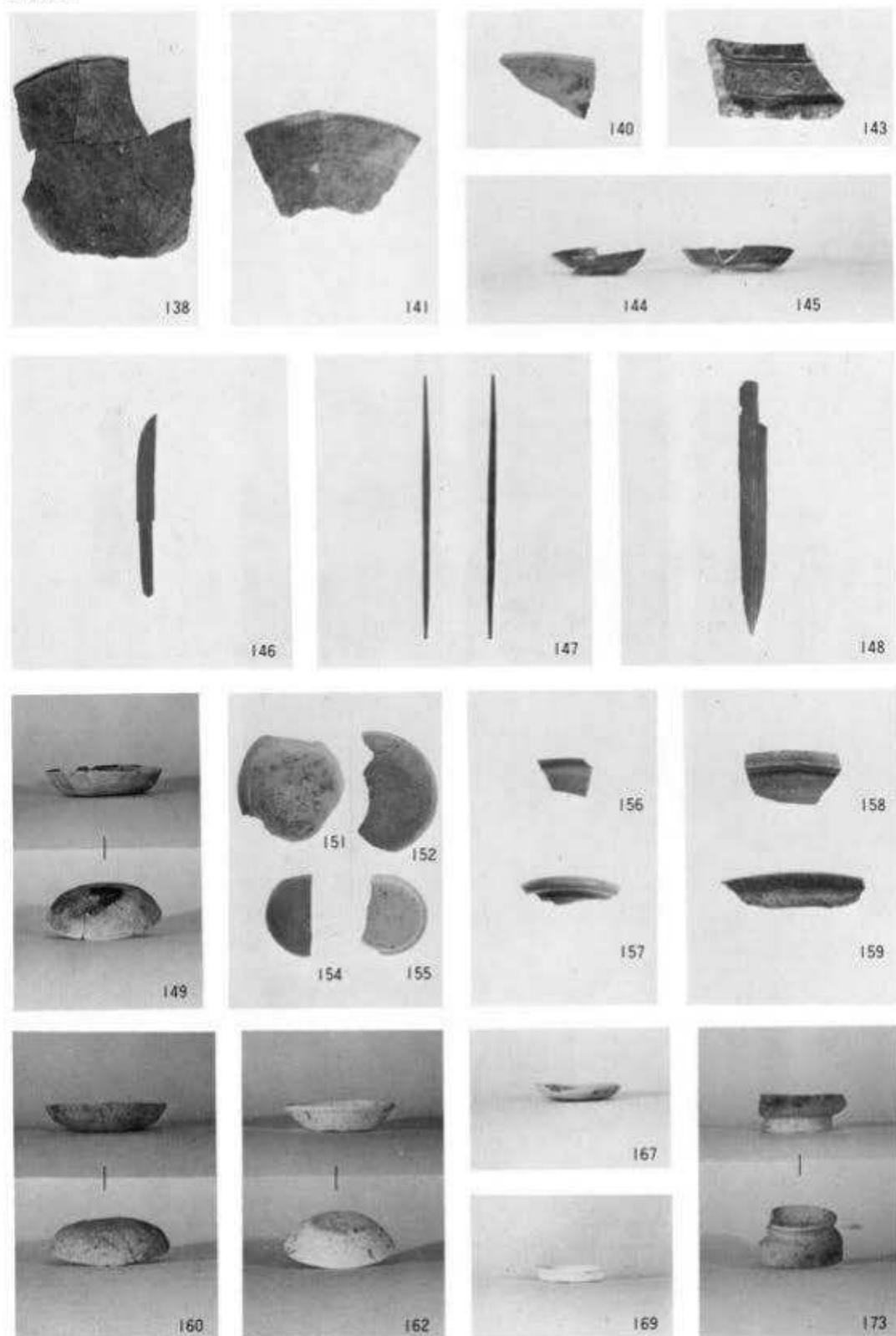
図版 5



図版 6



図版 7



## 根来寺坊院跡

町道根来・北大池線改良舗装工事に伴う発掘調査概報

昭和63年10月

発行 (財)和歌山県文化財センター

印刷 (資)山添印刷店